

機関番号：32682

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21810028

研究課題名（和文）英領西アフリカ現地新聞の分析を通じた、第二次世界大戦期の日本アフリカ交渉史研究

研究課題名（英文）Historical Research on Afro-Japanese Relationship during World War II through an Analysis of Local Press in British West Africa

研究代表者

溝辺 泰雄 (MIZOBE YASU' O)

明治大学・国際日本学部・専任講師

研究者番号：80401446

研究成果の概要（和文）：本研究は、第二次世界大戦期に「連合国」の一員に組み込まれた英領西アフリカ植民地（主にゴールドコースト[現ガーナ]）の現地新聞が、「枢軸国」の一員として敵対国となった「日本」をいかに報じ・論じたかを、現存する当時の新聞及び、新聞発行に関する植民地側・新聞社側双方の史資料を用いて検証した。これにより、現地知識人層の第二次大戦観と「日本」観の変遷、及び第二次大戦期における植民地当局と現地メディアの関係の一端を解明することができた。

研究成果の概要（英文）：This research aims at examining and elucidating how African local press reported and described Japan and Japanese as a member of the Axis Powers during the Second World War, using the case of the British Gold Coast Colony, which was incorporated into the Allied Powers because it was under the rule of the United Kingdom. Collecting and analyzing articles and advertisements in the local newspapers published by the African intellectuals in the Gold Coast as well as official documents of the then colonial authorities, this research clarified the way the African intellectuals' view on Japan and World War II changed as well as some aspects of the relationship between the colonial authorities and the local press during the Second World War.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	940,000	282,000	1,222,000
2010年度	960,000	288,000	1,248,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：アフリカ近現代史・アフリカ地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：ガーナ、日本-アフリカ交渉史、メディア（新聞）とプロパガンダ、第二次世界大戦、イギリス領西アフリカ

## 1. 研究開始当初の背景

報告者は、2007年4月に日本学術振興会特別研究員PDに採用され、19世紀後半から20世紀半ばのイギリス領ゴールドコースト植民地（現在のガーナ）で編集・発行された現地新聞を主たる史料として、同時期における現

地知識人層の「文明化論」に関する研究を実施した。本格的な植民地統治が開始された19世紀末から20世紀前半のゴールドコーストでは、それまで「現地代理人」として優位な地位にあった現地知識人層が、「実効的な支配」を試みる植民地当局の統治方針の転換に

疑義を抱き、従来自らの帰属意識の拠り所としてきた「文明化」を再検討する動きが顕在化した。報告者は、現地知識人層のこうした動きの一事例として、現地メソジスト教会の牧師兼新聞編集者として「アフリカ独自の文明化」を主張した S. R. B. アットー=アフマに関する研究をおこない、彼が発行した新聞・著作及び現地文書史料に基づいてまとめた研究報告を国内外で発表した(その成果の一部は本報告書 5. [図書] ①にも反映されている)。

20 世紀初頭以降の現地知識人層の言論活動を追う中で、報告者は期せずして「日本」としばしば遭遇することになった。特に日露戦争後、「独自の近代化」を模索するゴールドコーストの知識人層は、非西洋諸国で唯一「列強」の一員となった日本を、単なる「西洋化」ではない「独自の近代化」の成功例として言及するようになった(Cf. J. M. Sarbah, *Fanti National Constitution*, London, 1906)。そうした中、2007 年 11 月に、南アフリカのケープタウンで開催された日本アフリカ交渉史に関する国際シンポジウム(‘Afro-Japanese Relations in Historical Perspective’)に参加することになった報告者は、従来の研究が言及してこなかった第二次大戦期の日本アフリカ交渉史を探るべく、当時のゴールドコースト現地新聞の日本報道に関する予備的考察を報告した(本人病気のため代読)。この報告は国外の研究者の関心を強く集めたことにより、報告者は同テーマの重要性を認識するに至った。

その後、米国ラッガース大学が主催した国際ワークショップ(「アフリカと第二次世界大戦を再考する」)に論文を応募し、申請者の応募論文はアジア人として唯一採用されるに至った。2008 年 3 月に開催された同ワークショップには、アメリカやアフリカ各地域の研究者のみならず、欧州及び中近東の研究者 20 数名が参加し、約 4 日間に渡って各自の報告に関して活発な討議がおこなわれた。報告者は、西洋の植民地支配への反発が強まる 20 世紀半ばのゴールドコーストの言論空間において、「日本」は第二次大戦勃発以降もしばらく(具体的には 1940 年頃まで)は、非西洋地域における「非西洋化的近代化」のモデルケースとして強い関心を集めていたが、第二次大戦の激化に伴い現地新聞は「日本」に関する言及を「模範」から「敵対国」へと急激に転換させたことを明らかにした。同報告は参加者の関心を集め、同テーマの重要性が確信されるに至った。また、この報告論文の準備段階で、博士後期課程在籍時より研究上の助言を受けているロンドン大学の D. キリングレー名誉教授からも、第二次大戦期の現地メディアの日本報道については少なくとも英語圏において先行研究は存在しな

いことから、本研究の継続を推奨する旨のコメントを頂いた。キリングレー教授は、第二次大戦とアフリカの関係に関する先駆的研究(Killingray and Rathbone, *Africa and the Second World War*, London, 1986)をおこなった研究者であるだけに、報告者は研究の方向性に関して強い確信を得るに至った。さらに、申請者はその後の研究経過を日本アフリカ学会第 45 回学術大会において発表し、国内の研究者からも同研究の有意性を認めるコメントを受けた。

## 2. 研究の目的

報告者の長期的な研究構想には、日本と英領アフリカの双方の新聞・その他メディアが、「アフリカ」と「日本」、さらに「第二次大戦」をいかに報じ・論じたのか、双方向的に検証する計画がある。これは、直接の宣戦布告をしたわけではない日本と英領アフリカの各植民地が、インド=ビルマ戦線における「意図せざる交戦」を経て、相互の認識・世界観にいかなる変化を生じさせたのか、改めて考察する必要を感じていることが背景にある。ゴールドコーストの現地新聞の事例を主題とする本研究は、その長期構想の端緒に位置づけられる。

本研究において報告者は、<1940 年頃を境とするゴールドコースト現地新聞における日本報道の急転換>に強い関心を抱いている。申請者はこれまでの研究において、この<急転換>の背景として、(1)<当局による検閲>、(2)<現地知識人層の(イギリス)帝国意識>、(3)<第二次大戦の経験を通じたアフリカ人の優越性の覚醒>、(4)<非西洋諸国間の対抗意識>などが指摘できるのではないかという研究仮説を提示してきた。当然ながら、これらの背景を結論づけるにはそれぞれの仮説に関して史料に基づく実証が要求される。約 18 ヶ月という限られた研究期間を有効に活かすため、本研究は、上掲の研究仮説のうち、(1)<当局による検閲>に関して、植民地側・現地新聞社側双方の史料に基づく検証を重点的におこなうこととした。

## 3. 研究の方法

本研究は、第二次大戦期における現地新聞各紙の日本に関する報道傾向、現地植民地当局の検閲の実態、及び現地新聞の報道傾向の変遷と植民地当局の検閲との関係、を歴史的に解明することを主目的としている。そのために、本研究は、(1)第二次大戦期にゴールドコーストで発行されていた全ての新聞の内容確認、(2)現地及び英国公文書館における検閲関連文書の調査・収集、(3)現地新聞社の経営実態と編集者に関する周辺情報の調査、を調査活動の軸に据える。(1)～(3)

の具体的な研究項目は以下の通りである：

(1)第二次大戦期にゴールドコーストで発行されていた全ての新聞の内容確認

→当該時期に現地で発行されていた新聞は、*The Gold Coast Observer*(発行地：ケープコースト)、*The Gold Coast Independent*(同：アクラ)、及び*The Ashanti Pioneer*(同：クマシ)の3紙である。そのため、本項目の具体的な調査項目は以下に限定される：

①大英図書館附属新聞図書館における*The Gold Coast Independent*の調査・収集(下表斜線部分)

②これまで調査を行っていない、ガーナ国立公文書館タコラディ、スンヤニ、タマレ各分館における3紙の所蔵調査

(2)現地及び英国公文書館における検閲関連文書の調査収集

→報告者は、ガーナ国立公文書館のアクラ本館・ケープコースト分館・クマシ分館における検閲関連文書の調査はほぼ完了している。そのため本項目の具体的な調査項目は以下に限定される：

①ガーナ国立公文書館タコラディ、スンヤニ、タマレ各分館における、検閲関連文書の調査収集

②ガーナ国立公文書館における、ゴールドコースト植民地(含、アシャンティ・北方諸領土保護領)情報局関連文書の調査収集

(3)現地新聞社の経営実態と経営者・編集者に関する周辺情報の調査

→報告者は、昨年実施したガーナ国立公文書館クマシ分館における史料調査で、*The Ashanti Pioneer*の編集者(故J. W. Tsiboe氏)と植民地当局とのやり取りが記録された文書を発見・収集することができた。この文書はこれまでの研究で言及されておらず、それだけでもってしても当時の検閲の実態を示す重要な史料であるが、あくまで植民地当局によって管理された「公文書」という史料面の限界がある。そこで、さらに同事例を深く検証すべく、*The Ashanti Pioneer*の経営母体であるAbura Printing Works社に関連する史料及び、関係者への聞き取り調査を実施する。具体的な調査項目は以下の通りである：

①ガーナ国立公文書館クマシ分館におけるAbura Printing Works社関連文書の調査・収集

②Abura Printing Works社関連人物・機関の調査

なお、項目②に関しては、以前より研究上の交流がある南アフリカ・アフリカ社会先端研究所(CASAS)のK. K. プラー教授が、故Tsiboe氏と親族関係にあるとの情報を得、教授本人から調査に関する情報交換を続ける予定で

ある。

#### 4. 研究成果

研究初年度にあたる2009年度は、基礎資料の収集を研究活動の中心に据えた。平成21年12月にイギリス・英国図書館附属新聞図書館において本研究最初の海外文献調査を実施し、第二次世界大戦期に英領ゴールドコーストで発行された*The Gold Coast Independent*紙を参照する機会を得た。同紙の第二次大戦期の発行分は、報告者がこれまでに確認した限り、出版国のガーナを含む世界の他の図書館・文書館には所蔵されておらず、先行研究においても言及されていないものであるため、貴重な資料を収集することができた。

2010年3月にはガーナ共和国における資料調査を実施し、同国公文書館(PRAAD)アクラ本館においては、第二次大戦期前後の日本=ガーナ間貿易に関する統計資料(ADM7シリーズ)を参照し、同館クマシ分館では、同時期にゴールドコースト植民地政府が放送したラジオ番組の SCRIPT(ARG1/28シリーズ)を参照する機会を得た。いずれも、当時のゴールドコーストの新聞記事の分析を行う上で、日本との経済関係及び、植民地政府が提供していた戦争情報及び「敵国としての日本像」を跡づけるための重要な資料である。昨年、その他、予備考察として5月にアジア世界史学会での研究報告を行った。

研究2年目となる2010年度は、研究基礎資料の収集・整理に加え、アウトプット活動にも注力した。まず、資料の収集に関しては、2011年8月末から9月にかけて、主たる調査地であるガーナに加え、比較研究の目的で、ケニアにおいても調査を実施した。両国は、同じ英領アフリカ植民地の西アフリカ(ガーナ)と東アフリカ(ケニア)の対照事例となるだけでなく、植民地統治システムにおいて「間接統治(少数のイギリス人植民地行政官が現地の統治機構を利用して植民地支配を行う制度)」が採用されたガーナと、白人入植者が統治の中心を担った「入植植民地」であるケニアは、植民地期の当局と現地メディアとの関係を考察する上で重要な比較対象に位置づけられる。

報告者はケニアにおけるパイロット調査として、ケニア国立公文書館において、現地発行新聞『イースト・アフリカン・スタンダード(*The East African Standard [Mombasa Times and Uganda Argus] Daily Edition*)』の1939年から1941年発行分(KNA Microfilm, Section 8, Reels #140-4)の全ての号の内容を確認した。それにより、(1)第二次世界大戦開戦後しばらくの間も、同紙に日本の商船会社の広告が掲載されていたこと、(2)しかし、まもなく日本を敵視する記事が紙面を飾

るようになり、対枢軸国へ植民地が一致団結することを訴える論調になっていくこと、(3)大戦が深刻化することによるケニア植民地への経済面での影響を懸念する記事が散見されるようになること、さらに(4)現地アフリカ人の戦争協力を促すため、植民地としても対策を練る必要がある旨を訴える記事も掲載されるようになること、などを確認することができた。

現地出身のアフリカ人知識人層が編集発行をおこなっていたガーナの新聞の事例と違って、ケニアの場合、現地新聞の編集・発行は白人入植者によっておこなわれていた。そうしたことから、上記、(3)及び(4)の論調は、本国イギリス政府と現地のアフリカ系の人々の間で、微妙なバランスを保ちながら、自らの権益確保を図っていた白人入植者の第二次世界大戦観を伺わせるものである。「現地メディア」の多様性を認識する上でも、さらに「第二次大戦期のアフリカにおける『日本観』」の重層性を認識する上でも、ケニアを含めた他のアフリカ地域の事例を調査することが今後も重要であることが明らかとなった。

ガーナにおいては、同国国立公文書館(PRAAD)アクラ本館において、同館が所蔵する第二次大戦期の英領ゴールドコースト政府関連文書の中から、日本に関する史料を一つずつ洗い出す作業を進めた。その結果、対日戦に関する優勢を報じるラジオニュース原稿などに加え、同大戦期にゴールドコースト政府に捕虜として収容された3名の「日本人」に関する公文書の存在を確認することができた。

報告者は2011年3月にもガーナで資料調査を実施した。この時の調査では、PRAADアクラ本館において、第二次大戦期の植民地情報局関係資料の所在確認と収集を行い、対日戦に関する優勢を報じるラジオニュース原稿や、同大戦期にゴールドコースト政府の総督府と情報局との間で交わされた、情報統制政策に関する書簡類の存在を確認・収集することができた。また、PRAADクマシ分館においては、前回までの現地調査に引き続き、第二次大戦期のゴールドコースト植民地内のアシャンティ地域における植民地当局による情報統制関係文書の確認・収集を行った。その結果、第二次大戦期の植民地政府・放送局関連の文書(ARG6/8/4)の存在を確認し、当館スタッフの助力によって、全文書の複写を行うことができた。これら調査によって得られた情報に基づき、報告者は英文論考(本報告書5. [雑誌論文] の①)を発表した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① Yasu'o MIZOBE、African Newspaper Coverage of Japan (The Japanese Army) During World War II: The Case of the *Gold Coast Observer* and the *Ashanti Pioneer*, 1943-1945、明治大学国際日本学研究、第3号、2011年、pp.15-25

② Yasu'o MIZOBE、'Independence is not always decolonisation': Briefly Examining African Decolonisation with a focus on Kwame Nkrumah and Modern Ghana、スワヒリ&アフリカ研究、第21号、2010年、pp.95-111

[学会発表] (計2件)

① Yasu'o MIZOBE、"African Press Coverage of Japan and British Censorship during World War II: Case Study of the Ashanti Pioneer, 1939-1945" First Congress of the Asian Association of World Historians(第1回アジア世界史学会)、大阪大学中之島センター、2009年5月30日

② Yasu'o MIZOBE、"'Independence is not always 'decolonisation' : Briefly Examining African Decolonisation with a Focus on Kwame Nkrumah and Modern Ghana" 'Decolonization and Economic Growth: Comparative Studies between Asia and Africa', The Japanese Association for the Study of British Imperial and Commonwealth History(イギリス帝国史研究会)、関西大学、2009年4月25日

[図書] (計1件)

① 溝辺泰雄、帝国による「保護」をめぐる現地エリートへの両義性-初期植民地期イギリス領ゴールドコーストの事例から-、『アフリカと帝国』(井野瀬久美恵・北川勝彦 編)、晃洋書房、pp.204-224、2011年

[その他] (計2件)

① 溝辺泰雄、新刊紹介 『脱植民地化とイギリス帝国』(イギリス帝国と20世紀 第4巻)(北川勝彦編著、ミネルヴァ書房)、アフリカ研究、第77号、2010年、pp79-81

② 溝辺泰雄、アフリカ(2008年の歴史学界 回顧と展望)、史学雑誌、第108巻5号、2009年、pp.301-303

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

溝辺 泰雄 (MIZOBE YASU' O)

明治大学・国際日本学部・専任講師

研究者番号：80401446